

「特に女性や子どもなど災害弱者」と言われる人には、防災情報が身近でなく、防災意識が生活に根付いて

一方、今年度、山形県自主防災アドバイザーとして活動している細谷さんは、震災の際、周囲の人が身を守る行動をとらないことに違和感を覚えたと話します。

ての活動に発展していきました」。
あわせて、寒河江市を中心に、県内への避難者の支援や交流サロンを通した心のケアを現在まで継続して行っています。

にも悲惨な状況で、一度や二度ではどうにもならないと思いました。そこで参加者を募つてボランティアを

災害支援を行っている早坂さん。きつかけは、地元寒河江市ののみこしがの仲間で行つた炊き出しのボランティアだつたと言ひます。

● 防災や減災への取組み

卷之三

卷之三

卷之三



奏でよう人

◎東根市出身、山形市在住。消防団一家に生まれ育ち、2014年防災士を取得し、「減災」を広める活動を開始。2016年より建築士、保育士の知識・経験を活かし、女性や子どもの視点に立って減災を伝える「減災Days」を起業。災害に対する考え方や実践の指導を行っている。山形県防災士会理事、山形県自主防災アドバイザー、山形市消防本部応急手当普及員などを務める。

◎山形市出身、寒河江市在住。東日本大震災を契機に、炊き出しやボランティアバスの運行に取り組む。福島県をはじめとする被災者支援や支援者育成を継続するために、2016年、NPO法人「やまがた絆のかけ橋ネットワーク」を設立。さまざまな交流やイベントを通して、避難者のストレス軽減と見守りを行う一方、地域の防災力アップに努める。

keyword

命を守り生きる力を育む防災

東日本大震災を機に、被災者支援活動を通して、
防災、避難所運営の大切さを伝える。
日々の暮らしに根ざした「減災」の取組みを説く。
そななお二人に話を聞きしました

県応援事業でのワークショップのコマ。細谷さんは災は自助・共助・復興につながる日常の暮らしから、まるいのちを守るなどやかな生き方をテーマに、どんなでも簡単に楽しく取り入れられる「減災を伝える講演や講話を開催している。



東北公益文科大学で実施した「HUG 山形版」の研修風景。「HUG」は「避難所運営ゲーム」の頭文字をとったもの。実際の現場を想定したさまざまな課題や問題をカード化し、これをチームで解決していく。ゲームという身近なもので、防災の意識を育んでいく。

